

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400211		
法人名	有限会社 ワンダー		
事業所名	グループホーム おむすび苑		
所在地	〒802-0032 福岡県北九州市小倉北区赤坂1丁目7番18号 TEL 093-533-0633		
自己評価作成日	令和07年02月01日	評価結果確定日	令和07年03月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和07年03月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「理念 親ならば 大切なひとならば そして自分ならば」を自分事としてとらえ、そこに心を込めていくことをケアや支援に繋げています。また、利用者様の安全・安心を最優先しサービスの提供を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「おむすび苑」は、地域密着型事業所として11年前に開設した、小規模多機能型居宅介護事業所併設、定員18名のグループホームである。看護師を配置し、協力医療機関と訪問看護との連携により医療面での強化を図り、看取りも行っている。法人内保育園の子ども達が敷地内の畑に芋掘りに訪れたり、敬老の日やハロウィンでの交流は利用者の方の大きな喜びである。また、家族も参加して利用者と一緒にカレーを作る「おむすびの日」を月1回開催し、4組程の家族が参加する運営推進会議を2ヶ月毎に開催する等、家族と共に利用者を支える関係を築いている。おむすび公園を散歩したり、屋上でおやつを食べたり、ドライブに出かける等、アイデアを出し合い工夫しながら利用者の笑顔ある暮らしを支え、理念「親ならば 大切なひとならば そして自分ならば」を胸に、優しく丁寧に、そして誠実に、利用者や家族に寄り添っているグループホーム「おむすび苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「親ならば 大切な人ならば そして自分ならば」を自分事として捉え、全職員で共有しケアや支援への実践に繋げている	職員全員で話し合い、令和6年4月より「親ならば 大切なひとならば そして自分ならば」を新しい理念としている。自分の親だったら、自分だったらどうしてもらいたいかを常に考え、自分の事として捉える事で理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症も5類に引き下がり、少しずつではあるが交流の場を設けている 町内会に加入し、地域の情報共有をしている	町内会の一員として回覧板を回したり受け取ったり、毎週木曜日のゴミステーションの清掃に参加する等、今出来る事に取り組んでいる。法人内保育園の子ども達が芋掘りに訪れたり、敬老の日やハロウィンでの交流もあり、利用者の喜びとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域(病院、施設等)より、問い合わせ時に、支援内容を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、おむすび苑の状況を報告し、意見を聞き、サービスに生かしている	運営推進会議は、併設小規模多機能ホームと合同で2ヶ月毎に開催し、ホーム運営や取り組み、行事や研修計画、事故等について報告している。家族の参加も多く、参加委員から意見や質問、情報等の提供を受けて話し合い、出された意見をホーム運営や介護サービスに反映させている。	外部からの参加が少ないため、委員増員に向けた声掛けを広げると同時に、会議内容の工夫に引き続き取り組むことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か疑問や、尋ねたいこと、相談事は、すぐに連絡しアドバイスを受けている	管理者は、行政窓口にも、空き状況や事故等を報告している。疑問点や困難事例について相談し、アドバイスを受ける等して連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ施錠とし、いつでも利用者様が屋外に外出できるよう支援している	身体拘束廃止委員会を中心に、虐待や身体拘束について職員研修を開催して職員への周知を図り、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。また、日常介護の中で気になる事があれば、その都度、職員間でしっかりと話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を受講している 施設長、管理者、主任がミーティングで職員のケア等を報告し身体拘束しないケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを用いて理解し、それらを活用できている	外部や内部の研修を通して、管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度を理解し、パンフレットや資料を用意して、職員へ周知を図っている。必要時には、利用者や家族に、制度について説明し、申請窓口を紹介できる体制を整えている。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、きちんと説明し、ご理解・納得を受けている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している また、日頃より電話や来苑時にお声掛けし要望を聞き、反映している	職員は、日常会話の中から利用者の意見や要望を把握している。家族の面会時や電話で利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望を聴き取り、職員間で話し合い、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、玄関と各フロアにご意見箱を設置している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会議、管理者会議、フロア会議、ミーティングを定期的に開催し、反映している	定期的にフロア会議を開催している。皆の前で意見を言いにくい職員もいるため、事前に伝えたい事を管理者が収集して会議で話し合うようにしている。施設長、管理者、主任が常に気を配り、職員の意見や提案を小まめに聴き取り業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長会議、管理者会議にて、現状報告し、職場環境の改善ができています		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集内容、面接時には、性別や年齢を限定せず雇用している 70代の職員を雇用し自己実現に配慮している	職員の募集は、年齢や性別、資格や経験の制限はなく、働く意欲や人柄を優先している。採用後は、職員間で常に互いを思い合うことの大切さを説明し、助け合いながら、それぞれの特技や能力を活かせる職場作りに取り組んでいる。また、年1回の昇給、マイナスのない賞与の査定、有休、夏・冬のリフレッシュ休暇の取得も奨励している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権を尊重した介護サービスについて、フロア会議で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者が安心して暮らせるグループホームを目指している。利用者の表情や声の変化から利用者の気持ちを察知するように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長会議・管理者会議にて、状況を把握し、法人内外の研修の機会を設けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な会議が懇親会を設け、サービス向上に取り組んでいる GH協議会加入し、研修や県主催にイベントに実行委員として参加している		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や契約時には、きちんとアセスメントし、本人の安心の確保に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約時には、きちんとアセスメントし、家族の安心の確保に努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを中心に、多職種で話し合い、色々なサービスが考えられるサービスの提案に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごせる空間を家族と一緒に考え、暮らしを共にする関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が来苑され、一緒に入浴支援を行っているご主人が頻回に来苑され2人の時間が継続できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くにいる家族様県外にいる家族様がいるので、電話やテレビ電話などで支援をしている	笑顔で挨拶を職員間で徹底し、面会に訪れやすい雰囲気作りを心掛け、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎している。現在、9時から18時まで自由に面会して頂き、遠方の家族とは電話やSNSで繋がれるように支援している。仲の良い利用者同士の関係も大切に支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにいらながらも、テレビを視聴される方、パズルをされる方、塗り絵をされる方と自分時間があるが、その中でも自分の時間が持てるよう職員が間に入り支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、来苑されたり電話での相談や、利用の相談・支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり伺い、困難な方は、家族様の意向と本人本位を優先し検討し、変更時は都度対応している	日常会話から利用者の思いや意向を把握し、思いの実現に向けて支援している。自己選択、自己決定が困難な利用者には、職員が寄り添い、表情や仕草から思いを汲み取り、常に利用者主体である事を意識しながら、ホームの中で利用者が安心して暮らせる支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用の際、これまでのサービス利用経過を聞き、把握し、職員と情報共有し継続的な支援を心がけている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	多職種で情報共有し、現状の把握に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様、利用者様、職員みんなで話し合い、現状にあった介護計画を作成している。また、要望や変更は都度対応している	担当職員やケアマネージャーが、家族面会時や電話で意見や要望、心配な事を聴き取り、カンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はきちんと記入し、情報共有や気づきの工夫をし、実践や介護計画の見直しをしている モニタリングにも記入し、介護計画の見直しを行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスを、本人様家族様の状況に合わせ、取り組んでいる。常に、情報共有し都度見直しをおこなっている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、暮らしを楽しむことができるよう支援している お米は地域のお米を利用している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医院は継続し、適切な医療を受けられるよう支援している 受診内容は、往診医と情報共有できている	入居時に利用者や家族の希望を聴いて主治医を決定し、馴染みのかかりつけ医の受診を継続している方は3名で、受診日にはホーム職員が対応している。協力医療機関医師による定期的な往診と訪問看護師、看護師、介護職員が連携して24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さなことでも、看護師等に伝え相談し、受診や救急搬送に繋げている また、マニュアル作成しみんなて共有している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の連携室と連携し、早期に退院対応ができるよう、関係づくりを心がけている 退院カンファにも参加し退院後の注意点を聞き、支援している		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の判断で、重度化や終末期を話された時は、家族等と話し合い、支援に取り組んでいる また、できることを十分に説明し理解を得て支援している	重度化や終末期に向けたホームの方針について、契約時に利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と主治医、関係者で今後の方針を確認し、希望があり条件が整えば、看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行い、マニュアルに沿って、確実に実践できるよう備えている ヒヤリハット・事故報告書を振り返り、原因対策実践を行っている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練も定期的に行い、昼夜問わず、利用者様職員が安全に避難できるよう地域とも連携をとっている	非常災害を想定した避難訓練を年2回、併設事業所と合同で実施し、2階と3階の利用者18名を、安全に一時避難場所に誘導し、消防車の救出を待つ体制を整えている。また、「火を出さない」事を申し合わせ、毎日担当者が安全点検を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもって、言葉やまなざし、所作など心を込めて対応している	利用者一人ひとりの尊重とプライバシーを守る介護の在り方を職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛けている。新入職の職員へは新人研修でしっかりと意識づけを行っている。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き、自己決定できるよう支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならず、その日その瞬間に沿った支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む服装を選んでいただく 家族様がプレゼントされた洋服や小物を身につけていただく		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳、茶わん洗い・拭きを一緒におこなっている 洗濯たとみを一緒に行っている	法人厨房で作られた栄養バランスやカロリー計算された料理を配食し、炊飯や汁物の温めは各フロアで行なっている。食事の準備から片付けまで、利用者の残存機能に合わせて楽しみながら一緒に行っている。月1回のおむすびの日には、家族も参加して利用者と一緒にカレーを作って食べる等、食の楽しみを大切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1400Calを提供し、水分は個人の体重に合わせて設定している。使い慣れた食器や軽い素材などに変更し支援している 栄養管理者のもと献立表が作成されている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず口腔ケアを実施している。できることは利用者様にやっていただき、できないところ支援している。歯間ブラシや舌ブラシなどを使用し、また訪問歯科医や衛生士からの助言をもらい支援している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排尿パターンや個人個人の担当者がおむつ等の種類を検討し、ミーティングや家族様に提案し自立にむけた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行っている。利用者が重度化しても職員2人介助でトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間帯は2時間毎の巡視を行い、トイレ誘導、パット交換、オムツ交換等、それぞれの状態に応じて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトを提供している。個々の体重での水分量を把握し提供している。排便状況を看護師が把握し、往診時に報告し適宜支持を受けている。また、緩下剤や下剤、坐剤での対応を適宜行っている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援を行っている。無理強いせず、本人が気持ちよく入浴していただけるタイミングを職員間で共有している。入浴は、1対1でのゆっくりとして時間を確保している	利用者の希望や体調を見ながら週2回の入浴支援を基本としているが、便失禁があった場合はその都度シャワー浴を行なっている。介護士2名と訪問看護師1名で特浴を使って重度の利用者の入浴を行う体制が整っている。また、入浴は利用者職員が1対1でゆっくり会話が出来る大切な時間と捉えコミュニケーションに努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自由に居室で臥床していただけるよう声掛けをおこなっている。夜間は、21時消灯だが、眠くない日は、職員と一緒にホールで過ごしていただいている。また、麻痺の方がいらっしゃるので、家族様と話し合い臥床時間等安心を最優先し検討している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方、薬剤師を通して看護師と情報共有し、職員に必要性や変更時は、指導している。また、家族様にも変更時は報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホール内を自由に歩いていただき、歌が好きな方は得意な歌を歌っていただき、小規模多機能やおむすび公園へ遊びに行き、デイサービスの利用者や職員とお茶や談笑をされ気分転換をされている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症が流行しているときは、外出を控えている。おむすび公園に職員とお散歩に出かけたり、車でドライブを楽しんでいる	天候や利用者の体調に配慮しながら、おむすび公園を散歩したりドライブに出かけ、山の上から海を眺める等、利用者の気分転換を図っている。屋上でおやつを食べる等、日々の暮らしの中で少しでも外気に触れる機会が持てるように工夫しながら取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金より、外出時は、アイスクリームやジュースを購入している。個人のカバンがお部屋にあり、以前使用していたものがそのまま使用されている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、テレビ電話で頻回に交流を図っている。お誕生日やクリスマス、お祝いの時にはお手紙やプレゼントが届いている。年賀状も毎年届いている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはできるだけシンプルを心がけている。音や光、温湿度も配慮している 四季折々のレイアウトも考え、職員が自宅から季節の花を持ち寄り飾っている	三角形の敷地を上手に活かした建物は、清潔で清掃が行き届き、温度や湿度、照明や音、臭い等にも配慮され、明るく、アットホームな雰囲気のある共用空間である。地域交流室おむすびルームを設置し、おむすび公園を整備して、地域の方や保育園児、利用者の交流の場になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにいながらも、テレビを視聴される方、歌を歌われる方、塗り絵をされる方と自分時間があるが、その中でも自分の時間が持てるよう職員が間に入り支援している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた私物を準備していただいている。寝具を準備されるか方が多い	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や寝具、仏壇、リクライニングチェア、家族の写真等、思い出のある物を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるように居室を整えている。また、利用者の状態の変化に合わせて、床ベッドに替えたり、筆筒を外したりして、安全に過ごせる環境作りに努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりに取り組んでいる 常にレイアウト等を検討し、今、入居されている環境に見合っているか随時検討している		